

Global



グローバル

特集

宣教は 主が行う

南アフリカ&南アジア

P4



宮城県
フィールドレポート

連載

MY JOURNEY

Ex-OMerの歩み

Hi-b.a.
川口竜太郎

P5

宣教船から
高校生伝道へ!

2023年短期
宣教募集要項

P6



P7-8



トルコ震災の被災地から

P3

平安の子探し
in登米

OMのミッションステートメント：私達の願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられることです



船越 信哉
OM日本総理事



OM創設者 ジョージ・ヴァーワー氏
1938-2023

George Verwer

世界宣教に走り続けた、私たちの愛し尊敬するGeorge Verwerが天に凱旋しました。主は彼を通してOMをスタートされ、毎年何千人もの人を長短期の宣教に送り出す宣教団体とされました。現在134か国からの働き人約3,300人を擁し、147か国で活動しています。

George Verwerが残したものは、それは世界中でまだ『イエスキリスト』の名前を聞いたことのない人々への情熱と、それを宣べ伝えるキリストの弟子たちです。

OM日本・リトリート2023

2023年3月末、長野県でOM日本リトリートが行われました。年に一度、OM日本4つの地区(東北・関東・東海・北陸)から皆が集まり、一年の感謝とビジョンを共有するリトリート。OMインターナショナルのリーダーであるLawrence Tongも来日し、御言葉を取り

次いでくれました。私たちの働きがぶれないために、ゴールであるイエスキリストから目を離さない、力強いメッセージが語られました。明るく生き生きとした交わりの時、そして主のビジョンを共有する素晴らしい時となりました。

『OM Alumni Reunion』

日本にはかつてOM宣教船に参加した情熱あるクリスチャンがたくさんおられます。その人々との再結成! OM Alumni (旧 Ex-Omer) の方々と顔と顔を合わせて集まり、主からの世界宣教のビジョンと情熱を共に受け取る時を持ちたいと願っています。

2023年9月2日(土)午後3-5時
お茶の水クリスチャンセンター
(411号室、416号室)

OMインターナショナル代表
Lawrence & Susan 夫妻が来日

内容の詳細については、近日中にOM日本のHP(www.om.org/jp/)とFacebookにアップする予定です。確認をよろしくお願ひします。この『OM Alumni Reunion』には多くの協力が必要です。「協力したい!」と一言くださる方、ぜひ船越信哉までご連絡ください。
※ shinya.funakoshi@om.org



これからのOM日本

2023年4月1日現在、日本国内での宣教に携わる働き人が大人46名・子ども39名。海外へ遣わされている日本人は、ロゴスホープ号4名、また一つの家族がヨーロッパで難民の方々を支え、イエスキリストの愛をあらわしています。この夏からは新たな4名がロゴスホープ号に乗船する予定です。

OM日本として願うことは、地域教会との協力関係を持ちながら、教会のない地域に宣教することです。これはOM日本だけでできることではありません。皆さんの祈りと助けが必要です。また、OMチームもなく、未伝地の多い九州・中国・四国地方にもこれから宣教師を送りたいと願っています。私たちOM日本は、主のみこころがこの日本で行われることを切に願ひます。



1年に一度、全国のみんで集まるリトリート(長野県)



新たに送られる4名の若者の研修(三重県)

広告欄

郵送料のコスト負担軽減のために広告欄をもうけました。広告掲載はOM日本事務局 info.jp@om.org までご連絡を



さあ、みんなで広めよう。みことばを。
神のことばはますます広まり、増えていった。(新約聖書より)

「コンサイスバイブル」アプリ

聖書を読んだことのない方が聖書の概要と中心テーマを理解出来るように、読みやすくまとめられた無料アプリです。ノンクリスチャンのご家族やご友人に、聖書の全体像をつかんでいただくことができ、そこからディスカッションも始めやすく、自信をもってシェアできるアプリです。

GLOBAL BIBLE INITIATIVE (GBI)は米国テネシー州ナッシュビル市に拠点を置き、聖書翻訳及び世界宣教を目的とした団体で、現在、米国を始めグローバル範囲で活動を展開しています。<https://gbi.illc> をご参照ください。引用聖句は、GBIが翻訳し、著作権を有しています。翻訳は聖書全体ではなく一部になります。





①訪問先でいただいたきゅうりを持って、ハイポーズ。平安の子伝道のモットーは楽しむこと。私たちが楽しんでいなかったら、誰も私たちのようになりたくないからです ②三重県から応援に来た夫妻。過去に三重で平安の子をおこなった経験を生かす ③元OM日本総主事のスティーブン宣教師が登米市においてのビジョンを語る ④雨が降っても行きます ⑤訪問先でいただいたお茶。お家に招かれたら、必ず入り、出されたものは全て食べる



「平安の子探し」in 登米



スミスドルフ黒田 契子

ゴールデンウィークの5月4日～6日の3日間、宮城県登米市にて「平安の子探し」が開催されました。登米市は宮城県の北東部に位置する人口78,000人、県内有数のお米の生産地。OMは登米市で活動する唯一の宣教団体で、このOM宣教師達の祈りと願いに主は応えてくださいました。

訪問した家	433軒
返事なし	174軒
拒否	214軒
ただ受け入れ	15軒
平安の祈りを受け入れ	34軒
信仰告白	1名
再訪問OK	13軒

ました。全体的に好意的に対応くださったのは高齢者が多いですが、若い人の中でも、祈りを受け入れてくださった方々が数人いました。一方、コロナ渦の後で、人と話をするに飢えている感じもあり、ずっと立ち話を45分して、最後にお祈りを提案したらあっさり断れるというケースも。

参加者は、登米チーム5人+県外(埼玉、千葉、横浜、名古屋、三重)から15名、総勢20名。TCUの学生から、80歳近い夫妻も参加。

が34軒、「信仰告白」が1名、「再訪問OK」が13軒でした。

参加者のそれぞれの感想を通しても励まされました。大学生の青年は「若者は好印象がもたれやすいし、また時間もあるので、神様の前に生きた供え物として積極的に参加すべき」と話し、ある姉妹は「今までの自分なら絶対に参加しなかったけれど、神さまがはっきり導いてくださり、拒否されてもダメージがあまりなかった。平安が戻ってくるのを経験した」とおっしゃっていました。

参加者のほとんどが、「平安の子探し」は初めてだったので、多くの不安や、葛藤を抱えていました。しかし、全員が集まった時の喜びと一致は本当に聖霊の力を感じたせいで、力強いものでありました。

私は、最初、登米市という田舎の地域でこのような訪問は難しいのではないかと感じていました。きっと、嫌な顔で対応されたり、邪険に扱われるのではないかと。しかし、実際、訪問してみると、皆さん丁寧に対応してくださり、もちろん断られることは多かったです。その家に住む人々の顔を見ることができ、外からはわからない、家々の様子を知らることができました。そして、気軽に話をしてくださる方もいたので。実際、平安の祈りを受け入れて下さった家が34軒もありました。

私たちが町を祈り歩く中、神様が私たちに愛を増してくださる経験をしました。ルカ10章でイエス様が弟子たちに、何も持っていないようにと指示されたように、私たちも自分の経験や力に頼るのではなく、聖霊に導かれながら、主が用意されている人に会わせていきたいという期待と祈りによるアプローチは、これまで私たちが知る「伝道」とはまた違う体験でした。そして、例え、全て断られたとしても、チームで活動することで、他のチームで良い訪問があると、それが全体の喜びと励ましになりました。今回の開催に感謝しつつ。

今回のリードをしてくださった埼玉めぐみチャペルの播義也先生は、「70年の伝道の歴史がある登米市で、すでに多くの種まきがされている。私たちは、神様が用意されている心開かれ、神様を知りたいと渴いた人を取り出すのです。」と語ってくださいました。そして、「たとえ、拒まれたとしても、その平安は私たちに戻ってくるのですから」と。

袋一杯のきゅうりや庭のふきをくださった方、訪問した2人のメンバーを家に招いてお茶とお菓子を出して下さいました。他にも、足の弱い夫人の為、手を置いて癒しを祈り、再訪問の快諾を得たチーム、一人暮らしの男性は、訪問したメンバーに「毎週金曜日は家にいるからこれからもきていいよ。実は一度教会に行ってみたくて」と話してください

2日間の平安の子探しで、私たちは433軒の家の平安と祝福の為に祈ることができました。初日は登米市の中田町、2日目は石越町。両町ともに教会のない町です。結果は「返事なし」が174軒、「拒否」は214軒、「平安の祈りを受け入れ」

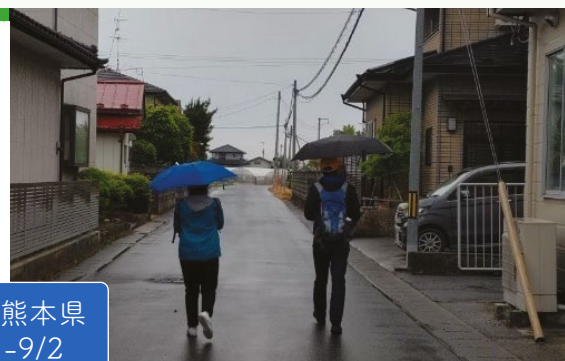
平安の子さがしとは？

平安の子探し(英語名 "Finding the Person of Peace")はアジアの多数の国で長年おこなわれ、実証されてきた伝道の方法です。日本ではアジアアクセス(旧JCGI)が声かけをして、地元の牧師会、宣教会、また宣教団体とのコラボにより開催されています。

現在までの開催地：
北海道／青森県→高知県→山形県→熊本県→奈良県→三重県→福島県→宮城県



次回開催は熊本県
日程：8/31-9/2
30歳以下の方で



特集



宣教は主が行うこと



① 南アフリカにてランニングを通しての伝道と弟子訓練 ② 半年間メンターして関わった学生の洗礼式 ③④ 山岳部のチベット仏教の村を伝道 ⑤ チベット仏教の寺院 ⑥ チベット仏教部族の子供

三重県出身のOTです。私は一年間の南アフリカでの宣教弟子訓練、そして一年間の南アジアでの伝道活動を一旦終え、今年の三月に一時帰国しました。

2021年の2月、私はMDTプログラムに参加するために、南アフリカに渡りました。MDTプログラムでは初めての5ヶ月間はトレーニングベースで伝道やDisciple making(弟子作り)についての学びをし、あとの7ヶ月間は実際にフィールドに出る伝道活動を行いました。ベースでの学びのあと私は恵まれない子たちのために村に創設されたミッションスクールでのランニングを用いた学生伝道や、また道端で出会った人々に対する関係伝道を行いました。その伝道活動を通して何人かの人々が主を受け入れ、1人の学生が洗礼を受けました。

主は南アフリカで、私に多くのことを教えられ、また実りのある時を与えてくださいました。MDTプログラムが終わりに差し掛かった時、主は私に対して中国南西部とヒマラヤ地域に居住するチベット仏教の民族に福音を届けるビジョンをくださりました。そして、2022年の2月に私は南アフリカから南アジアに渡りました。

しかし南アジアへの道のりは簡単なものではありませんでした。2021年10月、私は南アジアに伝道に行くことを決意しました。しかし、渡航の計画をし始めたころ南アフリカで新型コロナのオミクロン株が見つかり、渡航制限で南アジアへの国境が閉ざされてしまいました。翌月、翌々月になっても状況が変わらず、南アジアに行くことは主の御心ではないのかとあきらめかけていました。しかし、南アフリカでの滞在ビザが切れる2週間程前になんと渡航制限が解除され南アジアへの国境が開かれ、私は航空チケットを購入し荷物をまとめ空港に向かいました。しかし、空港に到着しチケットを見せてチェックインしようとする空港のスタッフから南アジアへの渡航は無理だから日本に帰国してくれと言われてきました。焦りながらも、大使館に問い合わせ、祈り待ち

続けると、航空会社から空港にメールが届きなんとチェックインカウンターが閉まる10分前ギリギリで搭乗許可を貰ったのです。その後、約20時間以上のフライトを経て、南アジアに入国することが出来ました。

さて、南アジアに入国する一ヶ月前、ある夜私は不思議な夢を見ました。その夢の中で私は誰かの家に滞在していて、ベットの上で仰向けになっていました。すると、数人の仏教の僧侶が私の家を訪れて来てお経を唱えはじめました。そのうち一人の方が私の寝ている部屋に入って来てベットの真横に立ち私を見つめました。私は恐怖で目を覚めました。不思議な夢でしたが、私はその後の一年間の南アジアでの伝道活動を通して、この夢の意味を知りました。その証をします。

主は南アジアでの私の現地語の学習を凄く祝福してくださり、滞在期間の後半にはその言語で聖書を読み、信者や未信者の方々や聖書の学びをしていました。言語習得が早かったことで、私は外国人の宣教師の方々ではなく現地の働き人と行動を共にすることができました。その中でも、特に元チベット仏教の僧侶(ラマ)のD牧師先生や同い年の友人であるB伝道師(彼も同じく元ラマ)とお寺や村々に周り、福音の伝道活動をしました。

2022年11月私はそのB伝道師と中国との国境に近いR地区に滞在し、村々を回って伝道活動を行いました。ある村を訪れた時に私たちは1人の寺院を出たばかりの元ラマの未信者の青年に出会いました。彼は福音について聞くと興味を持ち、街の教会(元ラマのD牧師さんが牧会される)に来て一ヶ月間の聖書勉強することに同意しました。主の恵みでその牧師さんを通して主は私に彼と聖書の学び、弟子訓練をするチャンスを与えてくださいました。そして、彼は家族の反対など様々な試練を通りながらも、教会の兄弟姉妹の祈りに支えられ、信仰告白をしてキリストに従う者となりました。その後、彼は半年間の伝道訓練を受けながら、他の

村々に行き福音伝道をしています。南アジアで元ラマの方々や奉仕し、1人のラマが救われる、これが南アフリカで見た不思議な夢の意味だったのだと、理解することができました。

この二年間で伝道について学ぶ中、主は私に人々を救いに導き、未信者をキリストに仕える者へと変える主の御力を経験させてくださいました。高校を卒業後、主への献身を志した時、「こんな自分に福音宣教のために何が出来るんだ」と思いました。しかし、主はこの二年間の海外生活を通して、私に何度も言われました。宣教とは私が何をやるかではなく、主が私を通して何をなされるか。つまり、宣教の主役は私たちではなく主なのです。そして、宣教の目的は主に栄光が返ることです。どこかの宣教団体やある宣教師がすごいと言われるためではありません。私たちは懸命に伝道しますが、しかし人を変えて救うのは、主がおこなうことなのです。イエス様はマタイ28章において、弟子たちに大宣教命令を出されました。この命令は決して牧師や宣教師など、特定のキリスト者に命じられたことではなく、すべてのキリストの弟子に対するものなのです。

しかし、宣教をするのに特別な場所に行く必要はありません。なぜなら宣教地とは海外やジャングルではなく、未信者の方々がおられる場所だからです。それは私たちの近所や家庭、学校、職場かもしれせん。私たちがこの地上でできて、天国でできないことは2つだけで、罪が宣教です。言うならば、宣教を行うことは、私たちが地上での信仰生活を行う上で、なさなければならない働きなのです。

この2年間、南アフリカと南アジアでたくさんの経験を通して宣教の学びをすることができました。この機会を支援し、祈ってくれた家族、友人、母教会の人々に感謝すると共に、救い主である主イエスキリストに栄光をお返しします。



宣教船ドゥロスから 高校生伝道へ！

MY JOURNEY Ex-OMerの歩み

以前OM宣教に関わった人たちの、
帰国後の歩みをテーマにしています。



左) 南アフリカ、ダーバンにて、船に集まってきた人々との交流。 右) ゴミ山の中から食べ物を集めて暮らしている子供たち。

川口 竜太郎 hi-b.a. 代表スタッフ



自分は、2年数ヶ月にわたり、宣教船ドゥロス号で船上生活をしました。**イギリス(ウェールズ)で英語の研修**を受けた後、南アフリカ・ダーバンから乗船した宣教の旅は、**人生で最高のものだった**と言えます。

その船上生活はあっという間に過ぎ、下船後も世界宣教に携わりたい思いを心に秘めながら、神奈川の活水聖書学院で4年間学びました。派遣式(卒業式)後も、再び世界宣教に携わっていきかけたのですが、神学校の学院長と相談したところ、数年間は日本語で訓練をすることを提案され、その後、Hi-b.a.(高校生聖書伝道協会)のスタッフになりました。

Hi-b.a. スタッフになり10年以上が経ちました。信仰継承が危ぶまれる中、高校生伝道の働きは、福音未伝地である日本における、最大のミッションフィールドの一つだと自分は思います。

この十数年で高校生の傾向も変わりつつあり、コロナ禍の影響もあるでしょうか、SNSを通してオンラインで人と繋

がることのできる環境が整いました。そこには便利さとは別に、日本の多くの高校生たちは**不安と孤独**を感じているということです。彼らは、学校や部活、家庭の中に居場所はあるのですが、その場所が心休まる所ではないのです。

ドゥロス号での旅の途中で出会った、多くの**ストリートチルドレン**たちは、貧しい中であっても周りには**同じ境遇の間**がいました。しかし、日本のこどもたちは、周りと比較されて育ちます。するとどうでしょうか。友だち同士仲良くしているように見えても、**競争心が生まれ劣等感が伴うコンプレックス**が蔓延する。それが陰湿なイジメをおこすのです。しばしばSNSツールが悪いと言われる方がおられますが、そうではありません。**イジメを引き起こす要因が、あまりにも多く**子どもたちを取り囲んでおり、そして子供達はこのことを知りつつもそこから抜け出せないでいるのです。

詩篇34:5に「主を仰ぎ見ると彼らは輝いた。」とあります。一見すると、高

校生世代は信仰について興味がないように思われますが、そうではありません。彼らはただ、その世代における信仰の表現を知らないだけなのです。

全国には**300万人以上の高校生**がいると言われています。**全ての高校生に福音を伝えることが、Hi-b.a.に預けられている責任**です。

OMの働きに携わってくださる皆さまと心をつなげて、ともに宣教の働きを前進させていけるならば幸いです。

hi-b.a.



Hi-b.a. のYouTube チャンネルで宣教船ドゥロス号の話を語る川口さん



深水典幸(横浜出身)



宣教船ロゴスホープ号で2年間の奉仕についていました。

乗船前のことなのですが、長い間、別居していた父が自殺を計りました。それを通して、僕は人を狭い視野で捉えていたと知りました。それゆえ父に寄り添うことができなかったのです。

「どうしたら聖書のいう隣人として人に本当の意味で寄り添えるのだろうか?」その答えを探しに僕は船に乗りました。

乗船中、聖書が読めない。礼拝できない、祈ることもできない。それらは表面的にはこなすことはできましたが、虚しいものでした。僕の持っていた人間関係もどんどん痛んでいきました。そして、**祈ることもできず、八方塞がり**のように感じていました。

そんな時、あるリーダーの方からアドバイスを受けました。Trust people, Reach out to people. (人を信じること、人に関わり続けること) この思慮深く賢明な言葉に自分は救われました。僕はロゴスホープ号で何度もこの言葉を思い出して働いてきました。

僕は隣人愛について学びたいと思い乗船しました。僕がこの2年間を通して学んだ**隣人愛とは目の前の人に対してキリストのようなしもべ**であることです。これは自分が船上生活のリズムの中で学んだことですが、陸に上がりロゴスホープ号を去った今も、僕はこのことをモットーに、キリストと信仰の旅路を続けようと思います。



左：トルコのイスタンブール
右：ウクライナ難民支援

STM短期宣教募集要項

ウクライナの難民支援（ポーランド国内）

📍 ポーランド国内 〰️ 随時募集 奉仕期間は1週間から
応募締切 出発の3ヶ月前
🇵🇱 1週間で253 EUR
☑️ 18-28歳 基本的な英語は必須。

随時募集

① ポーランドは、ウクライナから逃れてきた母親や子どもたちを支援しています。社会的サポートやトラウマ体験後の心理的応急処置を提供。キッズクラブ、ユースミニストリー、女性ミーティングを運営し、慰めと励まし、喜びと希望をもたらし、キリストの愛を実践しています

② 奉仕内容：難民センターにてキッズ&ユースプログラム、女性ミーティングを運営。また、リソースセンターで援助物資の配布、倉庫の運営。人身売買やその他の安全保障上の脅威を防ぐための情報を提供する。時間と語学力が許せば、難民と一緒に過ごし、耳を傾け、励ましと祈りの言葉を通して神の愛を分かち合う。チームハウスでは、日常の家事や食事の準備、買い物、倉庫の整理なども行う。

*ボランティアは常時募集

REACH/MDT：トルコ弟子訓練

📍 トルコ 〰️ 2024年1月29日～7月8日
（被災地支援ではありません） 応募締切 9月17日
🇹🇷 7471 EUR
☑️ 21-50歳()

5ヶ月半

① 神に関する知識、神との親密さ、自己認識において成長し、また成長し続けるための知識と経験を得る。神が国々に対して持つておられる心を理解する。特にイスラムの人々の間で神が行っておられることに焦点を当て、様々な機会に触れながら学ぶことができます。多文化チームで奉仕しながら、イスラムの人々と関わるための聖書のかつ実践的なスキルやツールを学びます。

② 奉仕内容：可能な限り、トルコや他のイスラム圏で学んだことを実践する機会が提供されます。この5ヶ月の弟子訓練プログラムは、参加者自身の信仰また神や他者との関係を成長させ、そして最も関わりをもつことが難しいとされる人々とつながる素晴らしい機会です。

オフ・ザ・グリッド NZ（スポーツ弟子訓練）

📍 ニュージーランド 〰️ 2023年12月4日～14日
応募締切 2023年8月20日
🇳🇿 1144 NZD
☑️ 18-28歳 基本的な英会話能力必要

10日間

① 「オフ・ザ・グリッド NZ」とはニュージーランドの奥地で神様の言葉を、主の使命に生きる人生を、探求するものです。このプログラムは・メンタリング&弟子訓練・聖書研究&リーダーシップ・トレーニング・アウトドア・アドベンチャー&メディア断食

② 活動内容：・18歳～28歳のインターナショナルチーム（8名）と共に様々な体験をする。・聖書の学びと祈りによってクリスチャンとしての信仰を確認する。・イエス様にある希望を分かち合うための自信を身につける。・アウトドア・アドベンチャー（バックパッキング、カヤック、キャンプ）を通して聖書的なコミュニティを経験し、自分をより深く知る。
*Off The GRIDは肉体的に厳しいものです。厳しい環境の中、何日もかけてハイキングとカヤックをします。体調が整っていること、また一日中動き回ることのできる体力が必要です。健康は必須です。

STEP：OM船ロゴスホープ号に乗船

📍 ログスホープ乗船 〰️ 2024年1月11日～4月20日
応募締切 2023年10月11日
🇺🇸 2090米ドル
☑️ 18-39歳、日常英会話ができる

3ヶ月半

① STEP (Short Term Exposure Programme)とは、OM宣教船ロゴスホープ号への3ヶ月半の乗船を体験できるユニークなプログラムです。船上での生活はテンポが速く時に難しさもありますが、奉仕の心、学ぶ姿勢、柔軟性を持ってぜひご参加ください！一生に一度の素晴らしい経験になります。

② 活動内容：さまざまな国の人々と共に生活し働くことで、異文化でのクリスチャンの働き人に必要なことを直に経験することができます。日中は船内のいずれかの部署で実務を行います（週40時間/1日8時間）。週に1日はミニストリー Dayで、船上でのプログラムや陸上でのイベントなど、指定されたミニストリーに参加します（COVID-19の制約が適用されます）。基本的な英会話能力は必要。

アメリカ・OM 船の書庫での働きと学び

📍 アメリカ 〰️ 期間3ヶ月、毎月受け入れ可能
〰️ 開始月の3ヶ月前までに申し込み
🇺🇸 3ヶ月で1724米ドル
☑️ 18歳以上、英語不得意な方は無料で英語の語学学習を受講できます

随時募集

① アメリカ・サウスカロライナ州のフローレンスにあるOMシッps・インターナショナルのキャンパスにて、神様に仕え訓練を受けることのできるプログラム。宣教の経験がほとんどない人や、英語を上達させたい人に最適。異文化への、また「宣教」と「教会動員」についてのより深い理解を得る機会を提供。

② 奉仕内容：通常業務としては、午前は任意で英語の語学教室（ESL）を受講、午後はミニストリーセンターでの本の仕分け・梱包作業。週一でデポーション、祈り会。その他チームイベントとチーム生活に参加し、アメリカ文化を体験。毎週木曜はミッション&モービライゼーションクラスで宣教&異文化の学習。日曜は地元の教会を訪問&奉仕に参加。



左：フローレンスの書庫での働き
中央：ログスホープ号の寄港先にて
右：ニュージーランドのOff The Grid



トルコ地震の被災地を訪れて



3月20日から4月4日まで、以前トルコで働いていたOM日本のスティーブン・スミスドルフ氏がトルコ南東部の地震被災地を訪れました。

10年以上、東北の被災地で生きてきたとはいえ、トルコ南東部の甚大な被害を目の当たりにした時はかなり動揺しました。都市や村々は見渡す限り、平らな状態になり、6-10階建てのアパートはまるでパンケーキを重ねたように各階がぺちゃんこの状態になっているのです。倒壊したそれぞれの建物の中には何百という失われた命と、負傷した子供達、失われた日常と壊れた夢があります。

現在テント村に住む家族を訪問し、彼らの話に耳を傾けながら、私たちも彼らの痛みを感じ、共に泣き、慰めの言葉と祈りを捧げました。

バハー（仮名）と彼女の家族は今、アンタキヤのアパートが全壊してしまった為、メルスィン市に住む義兄家族の家の二階に身を寄せています。彼らが住んでいた5階は、大きな揺れが止んだ時には、1階になっていました。彼らは1階から4階までの隣人全てを失ったのです。彼らの娘（写真・ページ中央）は、足を押しつぶされた状態で瓦礫の中から救助されました。そして、メルスィン病院で足にプレートとピンを入れる手術を受けました。



バハーの家族はクリスチャンではありません。しかし、彼らの為に祈り、これからの治療と回復の為に義援金を渡すことができました。彼女から後日、このようなメッセージが届きました。「お祈りをありがとうございます。私達家族の為に祈ってください嬉しかったです。娘はゆっくりですが回復し、松葉づえを使いながらですが、自分の足を地面につけることができますようになりました。神の御心なら又会えることを願っています。その為に祈っています。」

 **献金方法**

「トルコ地震支援」と明記し、下記の口座までご送金ください

郵便振替口座 02100-0-24998
加入者名「OM日本事務局」

その他のお問い合わせは
OM日本事務局まで
電話：076-239-2830

**ウクライナ
避難民支援献金**

引き続き
上記の口座で
受け付けています

どうぞ、引き続きトルコの人々の為にお祈りください。最近はまだニュースには取り上げられることが少なくなりましたが、今も私たちの祈りと支援を切実に必要としています。

アジア・パシフィック 聖書カウンセリング・カンファレンス

2023年 11月2日(木)～4日(土)

会場：東京バプテスト教会

お問い合わせ：oicjapan.counseling@gmail.com

カウンセリングにおける聖書の十分性

全ての信徒と教職者のためのカウンセリング講習会。聖書に基づいたカウンセリングの必要性と、子育て、結婚生活、仕事場でも適用できる内容を学びます。

- ・オンラインで参加可能。
- ・字幕もしくは通訳あり。
- ・10名以上の経験豊富なゲストスピーカー



日本聖書カウンセリング協会 (JBCA)
「愛をもって真理を語り、キリストに向かって成長する」



詳しい情報はこちらのQRコードから。申込み可能

希望の光を…



支援献金募集

トルコ大地震支援



2023年2月6日にトルコ南部を襲ったマグニチュード7.7の地震により、トルコとシリアで約6万人以上が死亡したと報告されています。この地震は、1939年以来、トルコで起きた最大規模の地震です。OMは、最も支援が行き届かない人々やコミュニティに焦点を当て、今回の地震で影響を受けた人々のニーズに応えるべく、現在も活動しています。

🎁 献金方法

「トルコ地震支援」と明記し、下記の口座までご送金ください

郵便振替口座 02100-0-24998
加入者名「OM 日本事務局」

その他のお問い合わせはOM日本事務局まで
電話：076-239-2830

プロジェクトの概要: 絶望的な状況の中、現地のパートナーの救援活動を支援し、何千もの貧しい家族に手を差し伸べるための資金を調達しています。この救援活動の中心には、一人ひとりが神の愛を具体的な形で体験してほしいという願いがあります。私たちの救援活動は、次のような指針に基づいています。

- ・ 現地とその地域の人々との関係性に基づいた支援である (OMは地域のパートナーと長期的な関係をすでに持っています)
- ・ この支援活動は地域教会が主導し、実行する
- ・ あらゆる宗教、民族の人々を無条件で支援します。

震災初期にはメディアの注目が集まり、海外からの短期的な働き手や支援がありますが、OMは現地の教会やパートナー団体と共に、復興と希望をもたらすための 長期的な支援に尽力します。

対象者: 2月6日に発生したトルコ地震により、被災した10都市・地域で直接的な影響を受けたトルコ国内のすべての人々 (宗教、民族を問わず) に焦点を当て支援します



祈ろう

宗教や民族を問わず、被災したトルコ国内のすべての人々に、物資を通じて一人ひとりが神の愛を具体的な形で体験し、希望を持って生きることができるよう

OM日本・OM Japan

🌐 www.omjapan.org 📘 fb.me/omjapan

✉ info.jp@om.org ☎ +81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX)

📍 〒920-0277 石川県河北郡内灘町千鳥台2丁目394

OM日本会報紙 グローバル 第90号 2023年夏号

発行人：船越信哉 編集&デザイン：近藤健二



OM (Operation Mobilisation) は、世界約147カ国で3280名が活動している超教派の国際的宣教団体です。OMは世界宣教のために奉仕者の育成と、最も福音が伝えられていない地域への伝道、そしてイエスに従うものによる生き生きとしたコミュニティが形づくられ、育成されていくことを目標としています。